保育実践を伝えるクラス便りが保育の質向上に繋がる可能性 ― 幼稚園年中組のクラス便りの分析を通して ―

著者	片川 智子
雑誌名	鶴見大学紀要．第3部，保育・歯科衛生編
号	60
ページ	27-35
発行年	2023-02
URL	http://doi.org/10.24791/00001318

Creative Commons : 表示
http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.ja

鶴見大学紀要，第60号，第3部，27-35，2023.

保育実践を伝えるクラス便りが保育の質向上に繋がる可能性

－幼稚園年中組のクラス便りの分析を通して－

Classroom newsletters conveying childcare practices may improve the quality of childcare
—Though an analysis of the class newsletters of the middle kindergarten class.—

片川　智子
Tomoko KATAKAWA

１．問題と目的

保育を振り返り、子どもへの理解を深め自身の保育をより高めることは、目の前の子どもの日々の生活を充実させ、より豊かに育つことに繋がる。このような保育の質向上の手掛かりの一つとなるものが、記録である。

クラス便りは、保護者に園での子どもの生活や育ち、保育の実践を伝える機会である。クラス便りに記載する内容は、保育者が限られた紙面で子どもの姿や育ちを伝えようとするものであり、保育者が特に大切だと感じている子どもの育ちや、その子（たち）らしさ、保育実践の中で大切にしていることが表されていると考えられる。

そこで、本研究ではクラス便りに着目し、実際に保育者が保護者に伝えようとしている子どもの姿や育ち、保育実践の内容を明らかにすることで、クラス便りの記録としての機能と共に保育の質向上に繋がる可能性を探ることを目的とする。

２．本研究の方法

横浜市にあるＡ幼稚園年中１クラスのクラス便り２号～最終号までの計５号を対象に、分析・考察を行った。Ａ幼稚園は、子どもが思い思いに遊ぶことを中心に、クラス全体での活動や他クラスとの活動などを行っている。子どもの遊びが中心であることから、多様な姿の中でどのような姿を育ちとして捉えるかという保育者の視点が表れやすいと考えられること、クラス全体での活動等における子どもの姿や育ちも記載されると考えられることから、対象とした。

クラス便りは、話題のまとまり毎に分類名を付け、そのまとまり毎に特に伝えようとしている、または伝わると考えられることを要素として書き出した。３章に記す各号の考察は、この分析を手掛かりに行った。更に、書き出した要素を基に４章に記す総合考察を行った。

３．クラス便り各号の分析と考察

クラス便り２号～最終号までの計５号について、それぞれの内容の特徴と考察を記す。いずれの号も文字と写真で構成され、文章のみで伝えるものと、文章を主に写真を加えて伝えるもの、写真に短い文章や単語を加えたもの、写真のみで伝えるものとがあった。また、全号に通じたタイトルに加えて、各号のタイトルが付されている。

話題のまとまりは「遊び」「生活活動」「クラス活動」「異年齢交流」「行事」「散歩」「環境」「保護者へのメッセージ」「その他」に分類し、それぞれ掲出順に番号を付けた。明確に分けられないものについては、視点として重きを置かれていると考えられた分類を採用した。なお、表中（写）は写真、（キャ）はキャプションを表す。

（１）２号（10月初旬発行）について

２号は、10月初旬の発行であり、A3片面１枚分である。「お友達パワー炸裂！？」というタイトルが付されている。話題は、遊びが9、行事が2、生活活動・クラス活動・環境が各1、合計14である。特徴としては、以下の事柄が考えられた。

1）話題の多さ

話題は計14であり、１つ１つがほぼ同程度のスペースをとって作成されている。遊びの話題が中心であるが、どの話題もその様子や思い、工夫や展開を文章等で説明し、一つのまとまりとして示されている。例えばA3片面１枚分の話題数は、３号は６つ、５号は８つ記されていることからも、２号には多くの話題が掲載されていることが分かる。

この年は、子ども達が登園しての保育は６月からであり、分散登園でもあったことから、２学期９月のクラスの様子を伝えるこのクラス便りは、多くの子どもが登園しての保育となってすぐの時期である。そのため、多様な子どもの遊びが同時に多く起きる時期であることと、担任が様々な

〒230-8501　横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学短期大学部保育科
Department of Early Childhood Care and Education, Tsurumi Junior College, 2-1-3 Tsurumi, Tsurumi-ku, Yokohama 230-8501, Japan.

子どもの姿を多く保護者に伝えようとしたと考えられる。

2）自発的な姿を伝える

遊びでも、クラスでの活動でも、子どものやりたいという思いや、アイデア、発言等から展開したことが、多くの話題で触れられている。

いくつかの例を以下に示す。

夏期保育で使用したミニプールをそのまま出しておくと「これつかってもいい？」と言う声が。（遊び1）
お祭り。何をしようか尋ねると「おまつりのじゅんびする―！」飾り付けや屋台の食べ物を作っていました！（行事1）
ある日のこと。お弁当の準備の時間になると「先生はまだ（お部屋に）はいってこないで！」と言われてしまいました。（中略）力を合わせて机を運んだり、お友達の椅子を用意したり、一緒なら楽しく出来ちゃう様です。（生活1）

いずれも、子どもがやりたいと言ったり、始めたりしたことである。そのきっかけには、下線部のように保育者の意図的な環境構成が明確に示されたものもある。担任が、子どもが自ら思いついたり、やってみようとすることや、子どもが決めることを大事にしていることが分かる。紙面からは、どのような経緯で始まったのかは分からないが、いずれにしても、担任が、子どもの自発的な姿に価値を置き、保護者に伝えようとしていることは確かである。

3）遊び等の展開や継続性を伝える

多くの話題について、ある程度まとまった分量の文章で説明されている。きっかけや子どもの言葉、何を使ってどのように楽しんでいたか、その過程などである。

（写）ビニールプールで魚を釣る➡（写）真剣な表情でフライパンで魚を焼く（キャ）釣った魚を調理（遊び1）
ホールで遊んだ翌朝の出来事。「せんせい！いまホールみてきたけどあいてたよ！」ホールに行きたくて、自分で確認しに行っていた男の子！“いきたいな”が“あいてたよ（いけるよ）”に変わりました！（組活動1）
（写）木を触る子ども　（キャ）砂場で作った“全部の虫が好きな樹液”を塗っています。本物をやってみたいという事で…☞「メープルとおさとうってかいて？」「え？いいけどなんで？」「それでじゅえきをつくるんだよ！」➡（写）事務室にいる大人と話す　（キャ）手紙を渡して…。「これください！」➡＜次の日＞材料をもらって…（写）樹液を作る子ども、（写）数人で木に塗る（遊び4）

限られた紙面の中で、それぞれの遊びや生活に見られる子どもの姿を断片ではなく繋がりのあることとして伝えている。下線部からは、子どもの思いが翌日にも続いていくこと、継続的な繋がりがあることが分かる。

子どもが思いつきイメージを広げる姿や、それらを実現させようとする工夫が生き生きと示されており、そのための要求をしっかりと大人に伝えている。同時に、そのような子どもの要求や、工夫しようとする姿を受け止め、できるだけ実現できるようにしようとする保育者の援助を読み取ることができる。

4）大人に受け入れられにくい姿の意味を伝える

大人によっては受け入れにくく、制止するかもしれないと考えられる子どもの姿について、そこでの子どもの姿を認め、その意味と育ちを伝える記載も見られた。

お水を溜める為に隣の〇〇組にバケツを借りたり、ままごとのお椀を使ったり、ティッシュの箱で試してみたり（もちろん床はびしょ濡れです・・・）濡れた床を拭きながら、子ども達なりに考えていました！（遊び1）
（写）園庭の裏山の小道を示すロープをくぐろうとする2人の子ども　（キャ）こんな近道もあったとは！（遊び2）

このような記載を通して担任は、子どもが経験を通して自ら気づき考え理解していくことが育ちの過程であることを示している。大人にとっては戸惑うこともあるこのような姿を、担任が見守り、経験を共にする実践が伝わる。これは同時に、子どもの姿の読み取り方を示し、保護者の子どもへの理解を広げることにもなると考えられる。

5）友達との関わりを伝える

この号のタイトルが「お友達パワー炸裂！？」であることからも分かるように、友達との関わりが生まれてきていることを伝えようとしていることが分かる。全体的にも、「お友達と」「友達同士で」等の言葉が多く書かれている。写真も半分ほどが2人以上で関わりが感じられるものとなっている。

気になる友達や仲良しな友達も出来て、遊びもちょっぴり豪快に!?お友達パワー炸裂中の姿をご覧ください（冒頭部）
前日から「あしたたのしみだね♪」と友達同士で言い合う姿もあり、朝から大盛り上がりな子ども達。射的のコツをお友達に教えていたり、一緒に受付をやってみたり（行事1）
登園すると「きのうのまたやろう！」「〇〇ちゃんはどこ？」等とお友達と一緒に遊ぶ事を楽しみにしている声が！（写）家に見立てた大ブロックの囲いの中に3人で座る　（写）バスに見立てた大ブロックに5人で座る（遊び6）

写真は、複数で写っていても個々に遊ぶ姿や、一人で遊ぶ姿が約半数であるが、文字ではほとんどの話題に「友達」という言葉が書かれている。ようやく多くの子どもが登園しての保育が行われるようになった時期であり、他の子どもと関わっている姿を保護者に伝えたいという思いが保育者にあったと考えられる。

（2）3号（11月中旬発行）について

3号は、11月中旬の発行であり、A3片面1枚とA4片面

1枚分である。「子ども達の週替わりブーム特集」というタイトルが付されている。話題は、遊びが7、クラス活動が3、生活活動が1、合計11である。以下にその特徴を述べる。

1）一つの遊びの展開を重点的に伝える

オバケをテーマに様々な展開が見られたことが重点的に記載されており、A4の1枚半に相当する分量が割かれている。具体的には、**「「せんせい！ハロウィーンやりたい！」オバケが大流行」**という紹介に始まり、オバケやミイラに変身したりオバケの家を作ったりし、他クラスや様々な人に見せたり保育室をおばけ屋敷にして年少の子ども達を誘うというものである。

はじめは、子ども達がそれぞれ工夫してオバケに変装する様子が、一人ずつの写真8枚と共に伝えられており、テーマを共有しながらそれぞれのイメージを表現する姿として捉えられる。その後、チケットを作ってオバケの家に入って遊ぶ共通のイメージをもつ遊び、ミイラになるために子ども同士で協力し合う姿が示される。そして、クラスでのお化け屋敷や、年少組を誘うためにクラス全体で相談し合う姿が紹介される。

この一連の遊びにあるオバケの家は、大ブロックでできており、**「前回のおたよりでブームになっていたブロックのお家がオバケのお家になっていました！」**という説明がなされている。遊びが継続しながら、展開に合わせてイメージが変化したり周囲のイメージを取り入れたりして遊びが変化していく様子が示されている。

このような展開からは、遊びの広がりや深まりと共に、子ども同士の関わり合いが育つことが伝わると考えられる。

また、その他の遊びの話題でも、だるまさんが転んだのお題が変わる“だるまさんが〇〇した”の遊びがジェスチャーゲームに発展し、子ども達がクラスの友達の前でポーズをとる様子が写真で紹介されている。これも、上述のオバケの遊びの展開と同様に、遊びの展開が、子どもの発想の豊かさや子ども同士の関わりの育ちに繋がることを伝えることになるだろう。

2）遊びと行事との繋がりを伝える

今号で主に伝えられている10月の出来事には、運動会がある。そのため、A4の1枚は運動会に関連する姿をまとめたものとなっている。子どもの興味や発想が運動会に生かされることや、日常の遊びとの繋がりが示されている。

興味をもって準備をし、自分なりに工夫をする姿や、運動会で行うことを遊んだり自分たちで発展させたりする姿、年長の姿に憧れて真似して遊ぶ姿が紹介されている。日頃の興味が形になる機会であり、年長の運動会前後の姿から刺激を受けて、子ども達なりに取り入れながら育っていく機会となること、またその過程の中で子ども達が育っていくと保育者が捉えていることが分かる。

運動会に関連するお便りは、その過程での経験が記され、保護者が気付きにくい部分を伝える意味を持つ[1)]。当該園の運動会が、決められた種目を練習してできるようになった成果を見せるという目的で行うものではないことは明らかである。保護者によっては、練習して本番に臨むといったイメージをもつかもしれないが、子どもにとって日常との連続性をもちながら、日常と異なる特別な日としてある運動会の意義を伝えることになるだろう。

フランスや中国を知っているお友達がいて、国旗に興味津々♪オリジナルの旗を作る姿も！（写）1人・2人・3人で写るものがある。様々な国旗が載るボードをじっくり見る子ども。国旗を作る子ども達。オリジナルデザインの旗を持つ子ども。（遊び13）

“だるまさんが転んだ”の“だるまさんが〇〇した”（その都度お題が変わる）の遊びが大流行してました！（中略）鬼（お題を出す人）にタッチした人が次の鬼になるルールを作って遊んでいました。（筆者注＊運動会の種目に関係する）（遊び14）

リレーがしたい！～年長さんの姿を見て～　（写）じゃんけんをする子ども達。（キャ）走る順番を決めています！よく見ているね！　（写）輪のバトンを持って走る子ども達。（キャ）走る人が2人並んでいるのも年中さんらしいね。（遊び16）

3）様々な材料を用いて工夫する姿を伝える

写真を中心に、大きなカラーポリ袋や空き箱、セロハン、トイレットペーパー等の様々な素材を遊びに取り入れ、工夫する姿が多く紹介されている。

（写）カラーポリ袋を衣装にして変装する子ども達が一人ずつ8枚。空き箱にセロハンをつけたお面、布を使ったお面、空き箱と画用紙で作ったもの等、衣装の工夫がそれぞれ異なる。（キャ）いろんなオバケが沢山！（遊び10）

トイレに行ったお友達が「せんせい、ぼくミイラになりたいの。でもほうたいがないんだよね。」（そのタイミングでトイレの個室が開く）「あー！あれつかってもいい！？」あれとは、そう・・・トイレットペーパーの事です。（写）トイレットペーパを友達が手伝ってまきつける様子（遊び10）

（写）大きな紙のようなものを窓に貼る様子・薄い布を窓の外に掛ける様子・紙皿と画用紙で作ったかぼちゃの顔（キャ）〇〇組がおばけ屋敷に！（遊び10）

子ども達が、様々な素材を使って思い思いに工夫をして作り、それを使って展開していることが分かる。特に、トイレットペーパーでミイラになるような素材の使い方は、ともすると受け入れられにくいかもしれないが、これを認めていることからも、担任は、多様な素材に子どもが自ら関わり、試してみることを意味のあることとして捉えていることが分かる。

4）クラス以外の様々な人との関わりを伝える

上記のオバケブームは、同学年他クラスや異年齢の子ど

も達、園長等との関わりにも繋がっていったことが記載されている。同じクラスの子ども同士だけでなく、多様な人との関わりがあることを伝えていることが分かる。

「おどかしにいくぞー！」と隣の〇〇組へ。園長先生や年少さん、年長さんにも見せたいと意気込んで、いろんなお部屋をまわって楽しんでいました。（遊び10）
おばけ屋敷に他のクラスのお友達を呼びたいと言うMちゃん。どうしたら来てくれるのかをクラスのお友達に相談すると“おてがみをとどける”と言う案が出て、わんちゃん型の素敵なお手紙が出来ました（遊び10）
リレーがしたい！～年長さんの姿を見て～（遊び16）

このように、クラスを超えた人との関わりが示されているが、いずれも子どもたちの思いから関わりが広がっていることに特徴がある。2号からも分かるように担任は子どもがやりたいと思ったことが実現できることを大切にしており、このことを前提として、多様な人との関わりが広がるよう支えているのだろう。クラスの子ども達同士で楽しんだことや、自分たちで展開してきたことに自信が生まれており、子ども達自らクラス外に広げていこうとする育ちの過程も捉え、伝えていると考えられる。

（3）4号（12月中旬発行）について

4号は、12月中旬の発行であり、A3片面2枚分である。「“まねっこ”の力」というタイトルが付されている。話題は、異年齢交流が9、遊びが3、行事が2、クラス活動が1、散歩が1、そして8つの様々な姿のまとまりが1あり、合計17である。なお、異年齢交流には遊びが含まれるが、異年齢交流の視点から説明が付されていたため異年齢交流として数えている。

以下に今号の特徴を述べる。

1）異年齢の子どもとの関わりと育ち

今号は、異年齢の子どもとの関わりが中心となって構成されており、全A3片面2枚分のうち1枚分に相当する分量が異年齢との関わりに割かれている。特に、隣の年長組との交流が多く、年長児に憧れをもって真似をしたり、様々

年長さんの姿を横目でチラチラ見ながら、真似っこして背筋を整えたりお歌を丁寧に歌ってみたりいい刺激を受けたようです♪（行事3）
年長児になると目的に向かって活動していく事を楽しむ姿も出てくるそうです！（当該）組さんも来年は…？（異年齢3）
（当該組）が大工に夢中なのを知り、先輩大工さん達が教えに来てくれました！「まがったらすぐにもどすんだよ！」くぎ抜きも上手に活用しながら技を伝授してもらい大満足な子ども達（異年齢4）
（写）年長児にリボンを結んでもらう。（キャ）りぼんむすびできない…　かして！やってあげるよ！（異年齢9）
（筆者注：年少組を誘ってお散歩に行くことになり）（写）紙で入れ物を作る子ども達・年少組に行く様子（キャ）「〇〇ぐみさん手がちいさいからどんぐりあまりもてないかも！」「いれものつくってあげよう！」「あと、どうろにでちゃうかもしれないから、やくそくをおしえてあげよう！」「くるまのほうをぼくたちがあるいたらいいんじゃない！？」（散歩1）

なことを教えてもらったりする姿が多く紹介されている。

年長児を見て自ら学んだり、直接教えてもらいながら同じようにしてみたりすることが、育ちに繋がることが示されている。今号のタイトルが「“まねっこ”の力」であることからも、担任の伝えたいことは年長児に憧れて真似することで育つ姿であることが分かる。また、そのような年長児の様子を紹介すると共に、**「年長児になると目的に向かって活動していく事を楽しむ姿も出てくる」**と説明し、子ども達の育ちの見通しを伝え、期待がもてるようにしていると考えられる。加えて、年少児に対する思いやりや、守ろうと考える姿を紹介することで、実際に育っていることが分かるようにしている。

2）クラス皆での活動や遊びの展開を伝える

3号と同じく、遊びのきっかけや展開が示され、イメージが継続しながら広がっていく様子が伝えられている。また、クラス皆での活動が新たな活動や遊びに繋がっていることも分かる。

「この本よんで！」と一人のお友達が選んだ「段ボールで家をつくろう」の本を読んだ次の日。「ダンボールちょうだい」「カッターちょうだい」の注文が止みませんでした…（遊び18-1）
（写）一人で、複数でダンボールで家を作る様子・画用紙でお金を作る様子・ハンバーガーを作る子ども　（キャ）おうちがドライブスルーに大変身！？　※この続きは次回のお楽しみで♪（遊び18-2）
（写）絵の具で描く様子➡ダンボールの家に絵の具で描く子ども➡裸足の足で絵の具を塗る様子　（キャ）たまたま絵の具遊びをしていたら…“おうち”の中に絵の具を持参　あまりのダイナミックさで、この日のお片付けは、それはそれは大変でしたが　はしゃいでる子ども達の笑顔を見たら私も嬉しくなっちゃいました。（遊び18-1）
「みんなになぞなぞだしたい！」の一言がきっかけで“みんなのじかん”が出来ました。友達の前で発表する事で少しずつ自信が付き、発表の仕方を工夫する姿も出てきました！（写）箱で作ったものを頭の上に掲げて見せようとする様子。（キャ）「うしろにいるひとみえますか～！？」（組活動4）
どんぐりの絵本を読んだ日にまだどんぐり落ちてるからお散歩で拾ってきたいとの声があがりました。（散歩1）

これらの記載からは、クラス皆での時間が、子どもがクラスの仲間に興味関心や思いを伝える場になっていることが分かる。また、そのために子どもの選んだ本を読んだり、

子どもの声を全体に伝えたりする保育者の援助があることも分かる。加えて、このように興味関心や思いを大切にされているからこそ、やりたいと思ったことを担任やクラスの子ども達に伝えることができるのだと考えられる。クラスでの活動と思い思いの遊びは別々にあるのではなく、繋がり合い展開されているという保育の在り方を伝えることにもなるだろう。

お家作りからドライブスルーに展開したことと共に、その続きを約２ヵ月後に伝えると記載されていることからは、イメージが継続しながら広がる遊びが子どもの姿として意味があると捉えていることが分かる。なお、このコーナーの隣には、**「その隣で水族館が OPEN していました！」**と書かれ写真と共にその様子が紹介されている。年長児の遊びから刺激を受けたのかもしれない。一つの大きな遊びだけでなく、様々な遊びがあることも、大切にされていると伝わる。

遊びの展開の中では、絵の具遊びがお家遊びと繋がり、手足もスモックも（恐らく床も）絵の具がつくという出来事が紹介される。これは、２号にもあった、大人に受け入れられにくい姿を認めることでもある。遊びの中で起きる様々な姿を認めることと、その根拠が子ども達の生き生きとした姿であることは、今目の前の子どもの姿を大切にしようとする保育観を伝えることになる。

3）季節の自然との関わりを伝える

前項 2）で記したように、どんぐりの絵本を読んで散歩に行く事となったが、どんぐりやいちょうの葉を拾う姿、葉を舞い上げる姿等、秋の自然と関わる写真が多く掲載されている。また、大きな紙に多人数で絵を描き、**「秋の景色ってどーんなだ？」**と言葉が添えられており、子どもが表現しながらイメージを膨らませ、実際に直接感じる経験が示されていた。他にも手作りのいれものに葉や木の実を入れる姿や、その場で紙に絵を描く姿、友達と一緒に葉っぱを見る姿の写真もあり、自然に触れる感性と作ったり描いたりする表現、友達との関わりや身体でのびのびと自然に触れる体験等が、自然と関わる中で総合的に経験されることが分かる。だからこそ、担任はそのような写真をバランス良く選択しているのだと考えられる。

4）様々な材料を用いて作って使う様子を伝える

様々な材料を用いる姿は、それまでも伝えられているが、今号では作って使う様子が多く掲載されていた。

（写）ダンボールの中に段を作り、たくさんの上履きが入っている（キャ）下駄箱だってあるんです。（遊び18-1）
（写）椅子に紙で作った看板がつけられ、子どもが覗き込んでいる。（キャ）看板もありますよ！（遊び18-2）
（写）切った色画用紙を両手で押さえる子ども（キャ）ハンバーガー職人！（遊び18-2）

道具や材料を使い慣れ、遊びに必要な物を作り、遊びの中で使っていくこと、または作った物が遊びを広げていく姿である。ダンボール等の素材を駆使して作り上げる様子は、子どもが遊びの中で満足感や達成感を得ていることを感じさせる。同時に、担任がこのような子どもの工夫を、子どものアイデアや実行力が発揮されたものとして大切に思っていることが伝わる。子どもにとって遊びの中で作る体験は、生活の中で必要な物を考え、工夫し作り出す力の育ちともなる。遊びを通して子どもが育つ保育の在り方を伝えることにもなると言える。

（4）5号（2月下旬発行）について

５号は、２月下旬の発行であり、A3 片面１枚と A4 片面１枚分である。「笑顔いっぱい！〇〇ぐみ」というタイトルが付されている。話題は、遊びが 4、行事が 3、クラス活動が 1、その他が 3、そして９つの様々な姿のまとまりが１あり、合計12である。以下にその特徴を述べる。

1）伝統的遊びや行事と子どもの工夫を伝える

３学期に入って１ヵ月間程の姿を伝える今号では、はじめの A4 片面１枚強を割いて、正月遊びと節分について伝えている。羽根つき・凧あげ・福笑い・節分である。

羽根つき　打ち返すのはなかなか難しそうでしたが、子ども達は当てることが楽しい様子♪お友達と順番こに…「えいっ！」。“はねがたりない！” とアルミホイルで MY 羽根も作りました！（遊び20）
凧あげ　（写）9 枚あり、各々が作った凧を持ったりあげたりしている。（キャ）飛行機たこ・鳥たこ・羽付きたこ・ビニールたこ　いろーんなたこが出来ました（遊び21）
節分　季節の分かれ目にやってくる鬼を退治してその年を元気に過ごしましょう！という行事　色んな鬼がいるらしい！みんなの中にはどんな鬼が居るかな？（行事 6）
（写）鬼退治に向かう複数の子ども。（キャ）「おにはどこだー！やっつけるぞぉ！」猫鬼は歩き方までニャンコでした。お手製の金棒を持って鬼退治へ！（写）様々な素材で作った鬼のお面が 6 枚（キャ）いろいろな鬼（行事 6）

正月や節句等は伝統文化に触れる経験として大切であろう。このような伝統文化を、その意味を伝えつつ、日常の遊びと近い形で子どもが自ら工夫して楽しむことを大事な姿として捉えていることが分かる。

また、福笑いは**「何も言わずに黒板に飾っておいたら…」**と子どもの背丈ほどある大きなおかめとひょっとこの顔が飾られており、出来上がった多くの面白い表情と、子ども達もお面をつけている写真が掲載され、楽しさが伝わる。節分についても、最後に**「おもしろたのしい節分になりました♪」**とあることから分かるように、楽しんで伝統に触れることを前面に伝えている。

2）長期的な遊びの展開を伝える

12月発行の４号から続く遊びの展開が、A4 片面１枚弱を割いて紹介されている。一人の子どもが読んでと選んだ「段ボールで家をつくろう」の本から始まった、ダンボールのお家から展開していく遊びであり、これを拠点に様々な素材を取り入れて遊んでいた。冬休みを挟み約２ヵ月間の遊びである。

前回のおたよりで ＜おうち＞ から ＜ドライブスルー＞ になったダンボールの広場。ビニールテープで道路の線路を作ったり、ハンバーガーを作ったり大忙し！（遊び18-3）
＜ドライブスルー＞ から ＜パン屋さん＞ へ　ある朝突然、「パンやさんになったよ！」…（中略）レジ係の人と、袋詰めの人と、店員さんになりきっていました（遊び18-4）
「ねんちょうさんになったらパンやさんどうするの？」という話が出て、パン屋さん達と相談し、家具はお引越しをし、お店は解体する事となりました。（遊び18-4）

子どものアイデアや工夫を実現できるようにしていくことで、遊びのイメージが広がったり、友達と共有し協力し合いながら熱心に遊び続ける実際が分かる。担任が長期的な視点で遊びを捉え表していることから、このような子どもの遊びの見方があることを伝えることにもなるだろう。また、最後には進級を見据えて子ども達が相談して、長く遊んだダンボールを片付けるという経緯を丁寧に書いており、子どもが作り上げた世界を大切にする姿勢や、子どもが満足して終える姿が示されている。

写真やキャプションでは、ドライブスルーの車を作って隣のクラスの子どもを乗せてくる様子や、大量注文が入って頭を抱える様子、関心をもつ子ども達や大人が集まる様子等が紹介されており、楽しく真剣に取り組んでいることが伝わる。子どもにとっての遊びの重要性が感じられると考えられる。

3）作ったものを通してアイデアや工夫を伝える

上記のドライブスルーやパン屋さんの紹介では、子どもが作った家具等のみを写した写真が多く掲載されている。ダンボールと空き箱で作られた**「ハンバーガーの材料庫」**、ダンボールと空き箱と紙等で作られペットボトルが入った**「冷蔵庫（ドリンク）」**、**「穴あけパンチを利用してバンズの上にあるゴマを再現！」**して作られたハンバーガー、空き箱を組み合わせて作られた**「レジのカウンター」「電子レンジ」**等々である。

子どもが遊びの中で作り使っているものに、様々なアイデアや工夫が詰まっていることが分かる。同時にドライブスルーやパン屋さんという一言で表されるごっこ遊びが、多くの試行錯誤と過程を経ているものであり、その過程も楽しく、かつ子ども達の育ちそのものであることが示されている。

（４）最終号（3 月中旬発行）について

最終号は、３月中旬の発行であり、A3 片面３枚分である。「ありがとう」というタイトルが付されている。話題は、遊びが３、保護者へのメッセージが２、その他が１、そして５枚のクラス集合写真のまとまりが１あり、合計７である。以下にその特徴を述べる。

1）と 2）は、いずれも長期的な遊びの展開である。カプラ作りにA4 片面１枚分、絵本から発展した遊びにA3 片面１枚分を割いて、紹介されている。いずれも、１ヵ月程継続したり、広がっていく様子である。

1）カプラの長期的取り組みと協力する姿を伝える

「カプラくんの１か月」は、2/17 から 3/8 にカプラが担任の身長ほどになるまでが掲載されている。

2/17　建築開始！　（遊び 26）
2/18　大崩落　めげずに再建築
3/1　前よりももっと高く！　と積み上げる。
3/3　事件現場　タワーの途中が崩れ穴が開いた写真。
3/8　医療班到着、事件再び（前編）見事に空いた穴を塞いでいて先生もびっくり！
事件再び（後編）カプラが崩れた時の予備カプラを紹介。その後、出来上がったカプラタワーと一緒に４人の子ども達が写る写真が配置されている。
最後に、以下の文章が記されている。
高く作っても誰かがぶつかり壊れてしまい怒ったり泣いたりしていた１・２学期。段々と壊れない為の工夫をしてみたり、崩れてしまってもすぐに「だいじょうぶだよ！」「またつくりなおせばいいんだよ！」と声を掛け合う姿が…。

下に隙間を開けて落ちたカプラを取る工夫や、早く作るためのカプラの置き方の工夫等、繰り返し作ることでより作りやすい方法を考えてきたことが分かる。また、子ども同士が共通の目的をもって、支え合い協力し合う育ちが伝えられている。

2）子ども達のアイデアが繋がり広がって実現する過程

絵本「きょだいなきょだいな」を読んだことから、子ども達が興味を持ち、やりたいことが広がり、実現していく様子が示されている。その過程ごとに考察する。以下、全てクラス活動６の話題である。

・帰りのあつまりで読んだ絵本からイメージが膨らむ

２月12日（金）、いつものようにお帰り前に絵本を読みました。「巨大な巨大な」同じ繰り返しや韻を踏んだフレーズに大はまり！「きょだいな〇〇があったら？」「こんなことしてみたい！」と話が膨らんでいき、２月15日（月）、「きょだいなのえほんがつくりたい！」「みんなの“きょだいな”をかいたらいいじゃん！」という流れで、このきょだいな絵本作りが始まりました。

4号でも皆で読んだ絵本から遊びが広がることがあったが、ここでも絵本をきっかけに子どものイメージが広がり、伝え合う中で膨らんで、絵本作りに繋がったようである。子どもの発言やアイデアが基になっていること、様々な意見の中で目的が共有されていったことが示されている。

・イメージを共有して協力して作る過程

（写）模造紙の上に座る子ども。（キャ）「きょだいなかみが欲しいなぁ！」と言われて模造紙を準備！
（写）模造紙を3人で押さえる様子。（キャ）丸まっちゃう模造紙。
（写）2人・3人・多人数で一緒に絵を描く様子。（キャ）きょだいな絵は塗るのが大変だからお友達と一緒に♪　描くものを相談して「わたしはこっちかくね！」

子ども同士が相談し合い協力し合って絵本を作る様子が伝わる。写真の多くは、同じ模造紙に向かいながらも、絵を描いている友達を見たり、頭を寄せ合ったりしており、お互いに一緒に作っていると感じ合いながら進める様子が伝わるものになっている。

・アイデアと共に楽しみ方が広がる様子

(写) 出来上がった大きな絵本を2～3人で持ち、クラス皆に見せる。
「みんなにみせたい！」「えほんだれがもつの？」「33にんでつくったから33にんでもとうよ！」「そしたらぎゅうぎゅうになっちゃうよ！」
「ひろいのっぱらだから、はらっぱにいけばいいのに…」というMちゃんの呟きで「それいいね！」「あ！はらっぱでかくのはどう？」と決まる前から大盛り上がり！
他2クラスとはらっぱに行くことになる。
（中略）ひろーいのっぱらできょだいな絵を描いてきました。

「みんなにみせたい」という思いや、はらっぱにいく、はらっぱで描くというアイデアを伝え合うことで、子ども達のやりたいことが更に広がり、実現しようとしていることが分かる。自分たちで作ったことから達成感や充実感を得て、次の意欲へと繋がることが伝わる。

・その時々の遊びも大切であること
きょだいな絵本を作り、更に広げる過程ではらっぱに行く流れの途中で、はらっぱでのびのびと遊ぶ子ども達の姿が紹介される。

たくさんはしゃいで、春を見つけて「あぁ～たのしかったね！」と幼稚園に帰ると・・・（中略）「えほんみせるのわすれた！」うっかりさんです。「あしたまたさそえばいいじゃん！」と言う事で、気を取り直して他のクラスをお誘いに！

子ども達が、絵本作りの過程を楽しみながらも、その場その時々に興味関心をもって様々な環境との関わりを楽しんでいる。クラス皆で共有するような大きな活動が優先されるのではなく、一つ一つの遊びが保障され、大切にされることが伝わる。

・自分たちで作り上げる自信と人との関わり

（写）他クラスの子ども達に、きょだいな絵本を見せたり、言葉に合わせてふりつけを発表する姿。
いろんな絵の中から一つ選び、そのきょだいな物で何をするのかをどちらもその場で決めて、発表していました。

年中組ではらっぱに行った帰り道、さようならの前に「ままにもみてほしかったなぁー。」と言う声が。「ホールはどう？」➡「だめだよ！ねんちょうさんのやつ（卒園式）があるもん！」（中略）子ども達なりに沢山考えて、園長先生に相談し、お迎えの時間に合わせてやる事に…♪

（写）保護者向けの発表の準備をする姿。（キャ）飲み物やポップコーン。子どもが遊べるおもちゃまで♪

自分たちで作り上げたことに自信を感じ、他クラスや大人にも見せようとし、保護者への関わりにも広がった。いずれもどのように発表するかまで自分たちで考えており、自分たちが作った絵本への思い入れが感じられる。だからこそ、発表会場の準備までしたのだろう。発表に至るまでの、このような子どもの思いや過程を伝えることで、他クラスや保護者に発表をするという目に見える部分だけでなく、内面の育ちを伝えることになると考えられる。

・過程を支える担任の役割
きょだいな絵本づくりから保護者への発表までの過程からは、**「こんなことしてみたい！」「きょだいなえほんがつくりたい！」**という子どもの声に応え、**模造紙を準備！**し、**「はらっぱでかくのはどう？」**というアイデアを受けて園外保育を実施し、**「ままにもみてほしかったなぁー」**という言葉から園長と相談し、その可能性を探って機会を整えた担任の役割が分かる。子どものやりたいことに耳を傾け、実現できるよう実践してきたことが、子どもの活動の充実に繋がっている。そして、このような保育の在り方の意義が伝わることにもなると考えられる。

4．総合考察

計5号のクラス便りの分析から、大きく分類して「子どもの自発的な発想・行動が大切にされること」「遊びの展開や素材を工夫する姿への注目」「多様な人との関わり」が考えられた。また、これらの経験を通して子どもの育ちが伝えられていることが読み取れた。これらは、クラス便りから伝わる保育観と言えよう。本項では、これらの保育観と、保育観が伝わるようなクラス便りが保育の質向上に繋がる可能性について考察する。

（1）子どもの自発的な発想・行動が大切にされる

2号から一貫して、子どもがやりたいと言ったり、思いついて始めたり、興味関心を追求しようとする姿が大切にされていることが読み取れる。2号では、ミニプールをそのまま出しておくと「これつかってもいい？」と聞いて始める姿が紹介されている。3号では、ハロウィーンをやりたいと仮装を始める姿が、4号では「みんなになぞなぞだしたい！」という子どもの声からクラスの活動が展開する。5号では進級を見通してパン屋をどうするのか子ども達が決め、最終号ではきょだいな絵本を作りたい、作った絵本を見せたいという子どもたちの思いから活動が展開する。

中には、床がびしょ濡れになったり（2号）、室内で大胆に絵の具が塗られていく（4号）こともあり、大人にとって受け入れられにくい行動も認めることで、子どもの考える力や生き生きとした時間と遊びや生活の充実に繋がることを示している。

クラス便りにおいて、担任が常に子どもの発想が実現できるよう支えてきていることが分かると共に、このような子どもの自発性の尊重を、クラス便りを通して繰り返し伝えていると考えられる。

（2）遊びの展開や素材を工夫する姿への注目

遊びの中で、様々な素材に触れ、工夫したり作ったりする姿も全ての号を通じて紹介されている。このような姿が多く見られるのは、様々な素材に触れて工夫する遊びが多い（そのように遊びやすい環境が構成されている）園の保育の在り方の影響も大きいと考えられるが、同時に、クラス便りを構成するにあたって、担任がこのような姿に注目し、保護者に伝えたい姿として取り上げていることが分かる。

2号で紙皿や毛糸、空き箱等で食べ物を作ったり、ティッシュ箱で水を運んでいた姿が紹介され、3号でポリ袋や空き箱、トイレットペーパー等を使って工夫して仮装に用い、4号でダンボールを中心に様々な素材を組み合わせて家や店、家具を作って使う様子が紹介され、5号では家具や家電を更に使いやすく、売り物はより美味しそうに工夫されたものが紹介されている。これらの経験の積み重ねが、最終号できょだいな絵本を作ったり、保護者に発表する際の会場準備にも生かされていることが分かる。

また、3号以降には大きく紙面を割いて紹介する遊び以外にも、同時に起きている遊びをまとめた形で掲載している。椅子や遊具や自然等様々な環境に関わる経験が、至る所でなされていることを伝えている。

遊びを通して、企画力想像力を働かせ、身の回りの環境を取り入れて実現させていく中で、知識や技能を深めたり友達との関わりが育っていることが伝わる。子どもは遊びを通して心身の諸能力を発達させるという、保育の基本的な考え方が、クラス便りを通して繰り返し、また縦断的に伝えられている。

（3）多様な人との関わり

各号に必ず記されていたのが、クラスの子ども同士の関わりはもちろん、他クラスの子どもとの関わりや、園の職員や保護者等大人との関わりである。

2号では、虫好きな子どもが樹液を作ろうと職員室の大人にお願いする姿が、3号ではオバケになって他クラスの子ども達や園長に見せに行ったり、オバケ屋敷に誘う様子が、4号では異年齢の子どもと一緒に遊んだりして年長の子ども達に憧れ真似する姿や、年少の子どものことを思いやる姿が、5号では年長組が鬼になる節分が紹介され、最終号では同学年の他クラスの子ども達にきょだいな絵本を見せたり、保護者に見せたいと関わりを広げていく様子が紹介されていた。また、クラス全体の子ども同士の関わりとして、皆で読んだ絵本から刺激を受け、遊びや散歩に繋がる様子や、子どもが思いついたことをクラス全体に共有する経験も伝えられている。

子ども同士で協力し合ったり、できないことは頼ったり、作り上げて自信を得たことは発信して広げていったりと、多様な人との関わりによって、遊びや生活が広がり、園生活が豊かになっていくことが伝わる。一方で同時に、生き生きと一人で取り組む様子の写真も多く掲載されている。人との関わりの重要性と共に、一人で取り組む姿も尊重すべき姿として示されていると言える。人と関わり合って、また人の存在を感じながら、生活する中で育つという園生活の意義が伝えられていると言える。

（4）クラス便りが保育の質向上に資する可能性

今回対象としたクラス便りは、文字と写真とで構成されて子どもの姿が掲載され、約1ヵ月おきに発行されている。これは、子どもの声や行動の記録、写真等多様なデータを用いて子どもの経験の過程を示す、毎月の保育のドキュメンテーションであり、保育の記録と考えることができる。記録には、子どもへの理解を深める・保育の構想に生かす・保育者自身の子どもの見方を振り返る・保育者間で共有し自身の保育を見直す・保護者との連携に生かす意義がある[2)]。

クラス便りを作成する過程で、担任は一旦立ち止まり、子どもの遊びで作られたものや写真や日々の記録を手掛かりに約1ヵ月間の子どもの姿を振り返ることになる。そして、この時期の子どもの姿・育ちを表す事柄を選択し、子どもの育ちの実態・クラスの実態として捉え直すことになる。この過程は、上述の記録の意義である、子どもへの理解を深めることや、子どもの見方を振り返ることになると考えられる。

また、クラス便りは担任が個人的に発行するのではなく、園長や他の保育者と共有することになる。クラス便りを基にその内容や構成意図を伝え話し合うことは、自身の保育を見直すことにも繋がると考えられる。この保育者間の共有を含めたドキュメンテーション作成の過程については、「保育者自身の保育の振り返りとなり、その行為の繰り返しが保育者の資質向上に繋がる」ことも提示されている[3)]。

このような実践の循環にある記録は、保育の質を向上する意義をもつ。

一方で、クラス便りは読み手が保護者であることを意識して作成することになる。最終号に（カプラを）「高く作っても誰かがぶつかり壊れてしまい怒ったり泣いたりしていた1・2学期」「気持ちが大きくなってきて、上手くいかない事でもやもやしたり、お友達が大好きだからこそ、悲しくなったり…」という記述があることから、当該クラスの1年間には、怒ったり悲しんだりした姿があったことが分かるが、このような姿は本研究の対象としたクラス便りには記載されていない。保護者や子どもと共有することを目的とするクラス便りの特性として、怒ったり悲しんだりした姿は掲載されにくいであろう。しかし、子どもの育ちには大切な姿でもある。

クラス便り作成の過程において、怒ったり悲しんだりする姿も振り返ることになるはずである。その上で掲載する内容を取捨選択していく。その意味では、このような姿も含めて作成者である担任自身としては、振り返りがなされていると理解することができる。そうだとすると、他の保育者間での共有や検討の際には、何を掲載し、何を掲載しなかったのかを視点としてもつことで、保育の質向上に繋がる可能性があると考えられる。

5．今後の課題

本研究で対象としたのは、1クラスのお便りである。この検討から、クラス便りが子どもの姿と共に保育者の保育観や保育の特質を伝えている実態が明らかになったが、ドキュメンテーション作成の視点は、作成者である担任によって異なるという[4)]。そのため、担任が異なれば活用の仕方は異なると考えられる。このことは、本研究の課題である。

一方で、子どもの姿や育ちを伝えるクラス便りが記録としての機能をもつことは、多くのクラス便りに共通することだろう。日々の保育記録を1ヵ月毎に見返し、振り返る機会が無いことも多いと聞くが、クラス便りはその機会となり得る。本研究では、掲載しなかったことがあるという視点をもつことの必要性に触れたが、何が掲載されないのか・しにくいのかについては検討していない。今後更に検討を進める必要がある。

【引用文献】

1）箕輪潤子・秋田喜代美・中坪史典・砂上史子・高木恭子・辻谷真知子（2018）幼稚園はお便りを通して何をどのように保護者に伝えているのか：運動会のお便りの分析を通して．武蔵野教育學論集，5，201-217.
2）文部科学省（2021）指導と評価に生かす記録，チャイルド本社，22-28.
3）前田和代・浅井拓久也（2022）保育におけるドキュメンテーション活用に関する一考察（2）－ドキュメンテーションに関する保育者と保護者の評価の比較分析に基づいて－．東京家政大学研究紀要，62(1)，41-48.
4）前田和代・浅井拓久也（2020）保育におけるドキュメンテーション活用に関する一考察（1）－活用に伴う課題に焦点を当てて－．東京家政大学研究紀要，60(1)，21-28.